

# 主要事業個別シート(第2次実施計画/H27・28年度)

ver.1.01

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	環境産業部
	27008	ごみ溶融処理施設大規模整備事業	室名	廃棄物対策室
	基本施策の大綱	03:健康で自然の恵み豊かな環境の創造	会計	01:一般会計
	基本施策	03:循環型社会の形成・エコシティの実現	款	04:衛生費
	施策の方向	05:廃棄物処理施設の適正管理	項	02:清掃費
戦略プロジェクト	-	目	02:塵芥処理費	
事業予定期間	H 27 ~ H 37 年度 主な根拠法令要綱等 廃棄物の処理及び清掃に関する法律、電気事業法			

② 目的・概要	対象	市民及び事業者
	目的	ごみ溶融処理施設は稼働後まもなく15年が経過するなかで、数年前から建物の一部外壁で雨水の浸透が生じ、これまで応急的な補修で対応してきた。しかし、経年劣化による外壁や屋根の損耗・腐食が著しいため、外壁等の改修工事を実施する。また、基幹的設備改良以後、老朽化に伴い耐用年数を迎える他の設備・機器について計画的に整備を行い、施設を今後15年間稼働できるよう延命化を図る。
概要	建物の延命化を図るため、外壁材ALCの補修・塗装及びシール補修を行うとともに、炉室上部折版屋根のシリコン塗装を実施する。また今後耐用年数を迎える主な設備・機器にあつては、長寿命化計画の整備実行計画に基づいて、平成28年度から37年度において計画的に更新・改良工事を実施し、延命化を図る。	

		平成27年度	平成28年度	
③ 年度別事業計画	年度別事業計画	(ごみ溶融処理施設外壁等改修) ・設計・施工監理業務委託 ・外壁等改修工事	(ごみ溶融処理施設設備・機器改良) ・設備・機器改良工事 溶融物処理設備 2号水砕ピットケーシング更新(損傷部分) 大塊搬送コンベヤケーシング全面更新 大塊バケット搬入コンベヤ更新  用役設備 空気圧縮機更新(NO1~3)	
		事業費	50,500千円	84,000千円
	計画額	国庫支出金		
		県支出金		
		地方債		
		その他		
		一般財源	50,500千円	84,000千円
	予算額	事業費	45,792千円	80,000千円
		国庫支出金		
		県支出金		
地方債		34,300千円	60,000千円	
その他				
一般財源	11,492千円	20,000千円		
期間内総事業費(H27・H28)①		134,500千円	期間外事業費(H29以降)② 829,000千円 総事業費 (①+②) 963,500千円	

		平成27年度	平成28年度	(参考・平成29年度)
①	名称	ごみ溶融処理施設外壁等改修 進捗率		
	補足	実施済み事業費/総事業費	活動	計画値 100 単位 %
②	名称	ごみ溶融処理施設設備・機器改良 進捗率		
	補足	実施済み事業費/総事業費	活動	計画値 9 単位 % 18 %
③	名称			
	補足			計画値 単位
④	名称			
	補足			計画値 単位

事務事業評価シート

H28(主要事業)

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	環境産業部
	27008	ごみ溶融処理施設大規模整備事業	室名	廃棄物対策室
	基本施策の大綱	03:健康で自然の恵み豊かな環境の創造	財	会計 01:一般会計
	基本施策	03:循環型社会の形成・エコシティの実現	務	款 04:衛生費
施策体系	施策の方向	05:廃棄物処理施設の適正管理	科	項 02:清掃費
	戦略プロジェクト	-	目	目 02:塵芥処理費

② 目的・概要	対象	市民及び事業者
	目的	ごみ溶融処理施設は稼働後まもなく15年が経過するなかで、数年前から建物の一部外壁で雨水の浸透が生じ、これまで応急的な補修で対応してきた。しかし、経年劣化による外壁や屋根の損耗・腐食が著しいため、外壁等の改修工事を実施する。また、基幹的設備改良以後、老朽化に伴い耐用年数を迎える他の設備・機器について計画的に整備を行い、施設を今後15年間稼働できるよう延命化を図る。
概要	建物の延命化を図るため、外壁材ALCの補修・塗装及びシール補修を行うとともに、炉室上部折版屋根のシリコン塗装を実施する。また今後耐用年数を迎える主な設備・機器にあつては、長寿命化計画の整備実行計画に基づいて、平成28年度から37年度において計画的に更新・改良工事を実施し、延命化を図る。	

		27年度	28年度
①	名称	ごみ溶融処理施設外壁等改修 進捗率	計画値 100
	補足	実施済み事業費/総事業費	実績値 100
			単位 %
②	名称	ごみ溶融処理施設設備・機器改良 進捗率	計画値 9
	補足	実施済み事業費/総事業費	実績値 9
			単位 %
③	名称		計画値
	補足		実績値
			単位
④	名称		計画値
	補足		実績値
			単位

年度計画				年度実績			
(ごみ溶融処理施設設備・機器改良) 設備・機器改良工事 溶融物処理設備 2号水砕ピットケーシング更新(損傷部分) 大塊搬送コンベヤケーシング全面更新 大塊バケット搬入コンベヤ更新  用役設備 空気圧縮機更新(No1~3)				(ごみ溶融処理施設整備・機器改良) 機器改良工事 溶融物処理設備 2号水砕ピット下部ケーシング更新(損傷部分) 1基/炉 大塊搬送コンベヤケーシング全面更新 1基 大塊バケット搬入コンベヤ全面更新 1基  用役設備 空気圧縮機(No.1~No.3)更新 3基			
④ 事業の計画・実績	事業費	計画額	予算額	人件費	総人件費 ①	146	平均給与額×③
		決算額	79,920		一般職員人件費 ②	146	
	国庫支出金	0	所要人員 ③	0.02	⑤ / ⑥		
	県支出金	0	臨時職員人件費 ④	0			
	地方債	60,000	60,000	59,900	受益者負担額 ⑤		
	その他	0	0	0	受益者負担率	0.0%	
	一般財源	84,000	20,000	20,020			
	再掲	翌年度への繰越額	0	0			
		前年度からの繰越額	0	0			
		総人件費		①	146		
	総コスト		⑥	80,066			

⑤ 事業の評価	【事業の成果】	総合環境センター溶融施設は稼働から16年が経過し、設備機器の経年劣化が著しい。中でも特に老朽化していた溶融物処理設備及び用役設備の各機器を更新したことで、本事業の目的である施設の長期稼働に寄与することが出来た。	総合判定	A
	【反省点・課題】	ごみ溶融処理施設の設備・機器は国内メーカー以外に海外メーカーも多く参入していることから、設備・機器の更新時には、その選定について十分な時間をかけて精査する必要がある。		順調に進んだ
	【改善の方向性】	今後は、設備・機器更新の計画段階で国内外のメーカーを問わず、より高性能で安価な設備・機器を選定できるよう情報収集していく。		
事業目的の妥当性: 適切		有効性: 適切	最終評価確認者: 廃棄物対策室長 杉本 良則	